

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

損害保険ジャパン株式会社（証券コード：-）

【据置】

長期発行体格付	AA+
格付の見通し	安定的
保険金支払能力格付	AA+
格付の見通し	安定的
債券格付（期限付劣後債）	AA-
国内CP格付	J-1+

セゾン自動車火災保険株式会社（証券コード：-）

【変更】

長期発行体格付	AA	→	AA+
格付の見通し	安定的		
保険金支払能力格付	AA	→	AA+
格付の見通し	安定的		

■ 格付事由

- (1) SOMPO ホールディングスグループは、損害保険ジャパン（損保ジャパン）、セゾン自動車火災保険（セゾン自動車）、SOMPO ひまわり生命保険などを擁する国内大手損保グループ。海外では SOMPO INTERNATIONAL (SI) をグローバルプラットフォームと位置付け、リスク分散と地域分散の効いた事業ポートフォリオの構築を進めている。損保ジャパンの格付は、グループ全体の信用力と同水準としている。グループ信用力は、国内損保事業における堅固な事業基盤、国内生保事業、海外保険事業などとの分散を背景とした安定的な収益力、財務の健全性などを評価しており「AA+」相当とみている。セゾン自動車の格付については、グループにおける戦略上の重要性に加えて、収益構造の改善状況などを踏まえて1ノッチ引き上げ、グループ信用力と同水準とした。
- (2) グループは「安心・安全・健康のテーマパーク」の構築を掲げ、介護・ヘルスケア事業など幅広い事業領域に取り組むことで他グループとの差別化を図ってきた。21年度からスタートした新中期経営計画においてもリアルデータの活用などを通じて、ユニークなビジネスモデルの進化と着実な利益成長を目指している。内部管理ベースの事業別修正連結利益をみると、SIの利益貢献によって海外保険事業が徐々に拡大、国内生保事業も安定的に利益を確保しており、事業ポートフォリオの分散が進んでいる。21/3期は、国内自然災害の影響が直近2期に比べて落ち着いており、コロナ禍の影響についてもボトムラインにプラスで寄与するなど限定的であった。今後も国内自然災害の影響は免れ得ないものの、国内損保事業の収支は基本的に堅調に推移していること、分散の効いた事業ポートフォリオの構築が進んでいることなどを踏まえると、安定的な利益計上は可能とJCRはみている。
- (3) 国内損保事業については、21/3期の正味収入保険料は、前期比ほぼ横ばいとなっている。全体の約5割を占める自動車保険のコンバインド・レシオは、コロナ禍の外出自粛による事故件数の減少により一段と低下している。一方、火災保険は料率引き上げを主因に増収となったものの、収益性については改善の余地がある。採算確保には依然時間を要するとみられ、リスク・リターンバランスを踏まえた適切な料率・商品改定がなされるのかが引き続きポイントとなる。SOMPO ひまわり生命では、損保代理店を中心とする多様な販売チャネルを通じて保障性商品の販売に注力しており、コロナ禍の影響を受けつつも新契約年換算保険料は前期比増加している。介護・ヘルスケア事業では、事業環境は厳しいながらも、利用

者数の拡大や生産性の向上による利益創出を図っており、KPI とする入居率は比較的高い水準を維持している。

- (4) 海外保険事業では、SI を中心にグループ会社の統合が進められている。スペシャルティ保険のグローバル展開に加え、ボルトオン型の M&A などを通じた引受拡大と継続的な利益成長により、新中計では修正連結利益を拡大させつつ、海外事業の構成比を安定的に 30%以上とすることを目指している。足元ではアンダーライティングの専門性を強みにマーケット平均を上回るレートアップを実現している。リテール部門や農業保険分野において、規模拡大と地域分散、プライシングの改善に取り組み、修正利益の大幅な拡大を計画している。グループ会社間でのノウハウの移転・共有も進めていく。SI の利益成長やグループシナジーの創出については、今後の成果を確認していきたい。
- (5) セゾン自動車は、グループにおける戦略的な重要性が高く、資本増強などの財務支援をはじめ、人材、システム、営業などさまざまな側面から有形無形のサポートを受けている。19 年にそんぽ 24 と合併し、グループの通販ビジネスを担う唯一のエンティティとしての地位を明確にした。特色のあるサービス展開やプロモーション強化による認知度の向上に継続的に取り組み、主力の「おとなの自動車保険」の保有件数を着実に伸ばしてきた。自動車保険市場におけるダイレクト型のシェアは依然として 1 割に満たないが、その中でもセゾン自動車は収益基盤を着実に強化してきた。21/3 期はコロナ禍の外出自粛による事故件数の減少要因があったとはいえ課題であった単体での黒字化を実現させている。
- (6) グループは ERM（戦略的リスク経営）のもとで資本・リスク・リターンのバランスを適切にコントロールすることで企業価値の最大化を目指している。事業計画、商品戦略などにおける経済価値ベースの評価の活用などリスク・リターンの管理は段階的に浸透している。海外保険子会社との ERM を通じた対話など経営への活用度、定着度が着実に高まっている。保険引受リスクのコントロール、政策株式にかかる価格変動リスクの削減や再保険の戦略的な活用などが、自己資本や収益の変動の抑制に寄与している。グループ連結ベースの ESR は、相当程度のストレスがかかる状況においても十分に健全性を維持することができる水準にあると JCR はみている。

(担当) 宮尾 知浩・阿知波 聖人

■ 格付対象

発行体：損害保険ジャパン株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA+	安定的
保険金支払能力	AA+	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第 1 回利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債（劣後特約付）	1,000 億円	2016 年 8 月 8 日	2046 年 8 月 8 日	(注 1)	AA-
第 2 回利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債（劣後特約付）	1,000 億円	2016 年 8 月 8 日	2076 年 8 月 8 日	(注 2)	AA-
第 3 回利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債（劣後特約付）	1,000 億円	2017 年 4 月 26 日	2077 年 4 月 26 日	(注 3)	AA-

(注 1) 2026 年 8 月 8 日まで年 0.84%。その翌日以降は 6 ヶ月ユーロ円ライボーに 1.86%を加算した率。

(注 2) 2026 年 8 月 8 日まで年 0.84%。その翌日以降は 6 ヶ月ユーロ円ライボーに 1.86%を加算した率。

(注 3) 2027 年 4 月 26 日まで年 1.06%。その翌日以降は 6 ヶ月ユーロ円ライボーに 1.81%を加算した率。

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	3,000 億円	J-1+

発行体：セゾン自動車火災保険株式会社

【変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA+	安定的
保険金支払能力	AA+	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2021年6月22日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「損害保険」(2013年7月1日)、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」(2019年3月29日)、「ハイブリッド証券の格付について」(2012年9月10日)、「金融機関等が発行する資本商品・TLAC商品の格付方法」(2017年4月27日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 損害保険ジャパン株式会社
セゾン自動車火災保険株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
なお、本件劣後債につき、約定により許容される利息の支払停止が生じた場合、当該支払停止は「債務不履行」に当たらないが、JCR では債務不履行の場合と同じ「D」記号を付与することとしている。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCR に対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル